

第5学年研究授業 指導案

令和6年9月25日(水)5校時
大田区立南六郷小学校 体育館
第5学年1組 27名 2組 28名

総合的な学習の時間指導案

～次年度よりおおたの未来づくり科～

研究主題 「他者や地域に関心を持ち、探究的に学ぶ児童の育成」
～教科「おおたの未来づくり」に向けて～

5年生分科会 目指す児童像

・地域の身近な問題に関心を持ち、他者との関わりの中で、すすんで学びに取り組む児童。

1 単元名「あったらいいな 未来の水門通り商店街」

2 単元について

本単元は、「おおたの未来づくり」の教科における「Aものづくり」の領域に当たる学習である。大田区立南六郷小学校の学区域にある「水門通り商店街」との連携を図り、「ものづくり」を通して、地域の身近な問題に関心を持ち、他者との関わりの中で、すすんで学びに取り組む児童の育成を目指す学習である。

水門通り商店街の青年部の方からは、「水門通り商店街にふらっと立ち寄れるような環境を創りたい。そのような場をこどもたちと共に創っていききたい。」という話や、「今は水門通り商店街に暗いイメージをもっているかもしれない。だから、無理に呼び込むのは違うとも思っている。」という話をいただいた。これは、水門通り商店街は昔から地域に身近な存在として関わり続けてきたという歴史をもつ一方で、こどもたちや保護者が商店街で買い物をする機会が減っていることが原因だと考えられる。実際、第5学年の児童に「六郷地区の特徴は何だと思いますか。」というアンケート調査をすると、水門通り商店街の魅力について答える児童は少なかった。そこで本単元を通して水門通り商店街を改めて見直す活動や「ものづくり」を通して地域の身近な関心に興味をもったことを、自分の発想で表現、発信する児童を育成したいと考えている。

第5学年の学習では、水門通り商店街を知り、水門通り商店街の未来を自由に思い描くことをスタートとする。水門通り商店街の青年部の方からお話をいただいた「こどもの発想を否定せずに、こどもらしい自由なアイデアを商店街の連盟にどんどん提案していききたい。」という思いを大切にしていきたいと考えている。次年度の第6学年の学習では、5年生での学びを活かし、水門通り商店街の未来をより具体的に形にしていくことをテーマとした学習をすることになる。第5学年で学んだからこそ分かる知識をもとに、地域を創生の方法を具体的に提案する学習である。

本単元を通して、高学年のこどもたちと水門通り商店街が繋がり、六郷地区の未来をよりよいものにしていきたいと考えている。

3 単元の目標

水門通り商店街や地域の方との交流を通して制作した作品を通して、私たちの生活に身近で利用した

くなる「未来の水門通り商店街」について考えることができる。また、「未来の水門通り商店街」について考えた自分の思いは、話の内容が明確になるように事実と感想・意見を区別したり、資料を活用したりして、水門通り商店街の方に伝えることができる。

4 単元の評価規準

		ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
A ものづくり	コンセプト	①水門通り商店街で働く方との対話を通して、水門通り商店街の地域との関わりや課題を理解している。	①水門通り商店街について調べたり話を聞いたりして、商店街に対する地域の人の思いや、自分にできることを具体的に考えている。	①水門通り商店街について自分で調査し、商店街の課題解決に取り組もうとしている。
	デザイン	②プレゼンテーション後のフィードバックから、計画の課題を正しく理解している。 ③水門通り商店街について考えた課題を正しく分析し、計画を基に、作品などを製作している。	②水門通り商店街について考えた課題をもとに、「あったらいいな」という自分の思いを表現する計画を立てている。 ③自分の立てた計画を水門通り商店街の方やスクールサポートなんろくの方に分かりやすくプレゼンテーションしている。	②水門通り商店街で働く方や地域の方に、自分たちの作品を見せる方法を検討し、自分の思いをもって取り組もうとしている。
	クリエイション	④水門通り商店街で働く方へのプレゼンテーションを通して、水門通り商店街の地域との関わりや課題を理解している。	④水門通り商店街の方への思いを明確にして、水門通り商店街の方や地域の方に自分たちの作品や活動を発表している。	③水門通り商店街の方や地域の方と協働して、水門通り商店街の方からいただいたフィードバックの課題解決に取り組もうとしている。

5 授業時数を削減する教科等の時数と本単元で補完する内容

教科名等	本単元で補完する内容		授業時数
国語	話すこと・聞くこと	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。	9
	話すこと・聞くこと	・話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別する等、話の構成を考えることができる。	
	話すこと・聞くこと	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	
	書くこと	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	
	書くこと	・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	
社会	情報産業	・情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して産業の様子を捉え、それらの産業が生活に果たす役割を考える。	4
算数	データの活用	・既習事項を活用してデータを考察し、問題解決や情報処理をする。	4
家庭	消費生活・環境	・身近な物の選び方、買い方について、実践を評価したり、改善したりする。	3
	家族・家庭生活	・日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、自分なりの仕事の工夫を考えて計画する。	
	衣食住の生活	・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考える。	
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。		15

6 児童の実態

本学年の児童は、3年の社会科や4年の「総合的な学習の時間」の中で、大田区の特色や伝統産業などを学習した。4年生では、地域のことを中心に調べる学習を行い、多摩川の生き物を捕まえるための罠を作ったり、多摩川の植物で染め物をしたりなどのものづくりに取り組んだ。

そのため、こどもたちは、3年生の学習を通して、大田区がものづくりのまちであることや、工場が多いことを理解している。また、4年生の学習を通して、地域の学習への興味や関心を広げている。しかし、自分たちの暮らす生活圏内の人との関わりや、働く人とのつながりについての意識や理解は十分ではない。特色の一つ一つがその地域の魅力であり、他者に伝える価値があることを、水門通り商店街の方との関わりを通して、考えさせていきたい。

4月に本学年の全児童を対象とし、六郷地区についてのアンケートを行った。「六郷地区のとくちょうを知っていますか。」という項目では、工場が多い、多摩川には遊ぶ場所やお花見ができる場所が多く

ある、銭湯が多い、公園が多いと回答する児童が多かった。しかし、今回の単元である水門通り商店街に触れる児童はほとんどいなかった。自分たちの遊びを中心とした町への理解はあるが、生活圏内の大人との関わりや、働く人とのつながりについての意識が低いことが分かった。今回、一緒に授業を作ったださる水門通り商店街青年部「G-round」の方々は、数年前のコロナ渦で外出が減り、店の売り上げが下がったり、活動が制限されてしまったりした団体のために何かできることはないかと考え、雑色駅前でのマルシェを開催した団体である。現在も2か月に1回のペースで開催されており、地域の人々にとって、親しみやすく参加しやすいイベントとなっている。そのような地域に根付いたマルシェに子どもたちが参加し、ものづくりを進めていきたいと考えている。

7 主題に迫るための工夫

(1) オクリンクプラスの工夫

- ・オクリンクプラスの付箋機能を使って、水門通り商店街について調べたことをグループごとにまとめる際、分かりやすくするために、以下の4種類に色分けをする。①調べて分かった事実（ピンク）、②事実から気付いたこと（青）、③疑問に思ったこと（黄）、④その他（緑）このように4種類に仲間分けすることで、グループごとの意見をまとめやすくさせる。
- ・オクリンクプラスの「みんなのボード」では、書き込み、移動、付け足しが容易にできるので、同時に意見の共有ができる。
- ・付箋には個人名が書かれているため、参加している全員の考えが分かる。

(2) 国語科「話すこと・聞くこと」の学習の活用

- ・「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだ図を生かす。
- ・「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだ要点をメモに取る学習を生かす。

8 指導計画 (全 15 時間)

学習過程	時	○主な学習活動	●留意点 ◇評価
コンセプト	1 時	○水門通り商店街青年部からの動画を紹介する。 あったらいいな 未来の水門通り商店街 めあて 水門通り商店街について知ろう。 ○「あったらいいな水門通り商店街」の学習計画を立てる。 ○水門通り商店街を知るための調査のために、一人一人ができることを考え、調べ学習をする。 ○次回までの課題を確認する。 ○本時の振り返りを行う。	●短い動画を作成して単元のめあてを明確にするとともに、児童の関心・意欲を高める。 ●「コンセプト」「デザイン」「クリエーション」の三段階で学ぶことを伝え、児童と教師が共に学習計画を立てる。 ●「コンセプト」はある程度具体的に考えさせるが、「デザイン」と「クリエーション」は、コンセプトの内容が明確にならないと、計画することができない。そのため、デザインでは「ものづくりすること」についてのみ紹介し、クリエーションは「交流を図ること」のみ紹介する。 ◇ウー① (ワークシート)
	2 時	めあて 水門通り商店街について調べてきたことを整理し、まとめよう。 ○各自で前時までに調べてきた水門通り商店街についての意見をグループで共有し、確認する。 ○調べて分かった事実をもとに、事実から気付いたことと、疑問に思ったことを考える。 ○本時の振り返りを行う。	●4人グループで、オクリンクの付箋を使って、①調べて分かった事実（ピンク）、②事実から気付いたこと（青）、③疑問に思ったこと（黄）、④その他（緑）の4種類に仲間分けし、確認させる。(国語の「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだ図を生かす。) ●オクリンクの付箋には名前を書かせ、誰の意見かを明確にする。 ●次時の全体で発表させる。 ◇ウー① (オクリンクプラス)

デザイン	3時 (本時)	めあて G-round の方々との対話を通して、水門通り商店街への理解を深めよう。 ○水門通り商店街の方に対し、商店街について調べてきた事実や、事実から気付いたこと、疑問に思ったことをグループごとに整理し、まとめたことを全体で発表する。 ○発表をもとに、水門通り商店街の方に現状や困っていること話してもらい、実態を把握する。 ・次時の活動へつなげるために、メモを取りながら話を聞く。 ○本時の振り返りを行う。 ・メモした内容の要点をもとに、感想を伝える。	●「どのような工夫をしてほしいですか。」という方法は、児童自身が考えることであることを十分に理解させ、質問させない。 ●国語の「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだ要点をメモに取る学習を生かして、感想を述べさせる。 ◇アー①、イー①（オクリンクプラス）
	4時	めあて 水門通り商店街のよさと課題をまとめ、「あったらいいな」を考えよう。 ○1時で調べたことや、2時での商店街の方からの話をもとに「あったらいいな未来の水門通り商店街」のアイデアを考えるために、商店街のよさと課題について意見を出し合う。 ○黒板にまとめたよさと課題をもとに、「あったらいいな」を考える。 ○本時の振り返りを行う。	●教師は、水門通り商店街の方の話の中で児童が理解できていない説明を判断し、補足の説明を加えたり、児童同士で話し合う時間を作って知っていることを友達同士で共有したりできるようにする。 ◇ウー①（ワークシート）
	5時・6時	・水門通り商店街について考えた課題をもとに、作品づくりを通して形に起こし、「あったらいいな」という自分の思いを表現する計画を立てる。	●「調査したこと」や「課題と魅力」と関連付けた提案を意識させることで、高学年らしい発想を引き出せるよう指導する。 ◇イー②（ワークシート）
	7時	・自分の立てた計画を水門通り商店街の青年部の方やスクールサポートなんろくの方にプレゼンテーションする。	●自分の計画をどのように発表すればよいかということも考えさせる。 ●基本的に、発表の場は水門通り商店街の「マルシェ」を活用させる。 ●基本的に、発表する際の最長期間は1年間であることを伝える。 ◇イー③（発言）

	8時	・プレゼンテーション後のフィードバックを通して、再び計画を立てる。	●自分の計画をどのように発表すればよいかということも考えさせる。
	9 ～ 11時	・計画を基に、立体作品や平面作品などを制作する。	●基本的に、発表の場は水門通り商店街の「マルシェ」を活用させる。 ●基本的に、発表する際の最長期間は1年間であることを伝える。
	12時	・水門通り商店街で働く方や地域の方に、自分たちの作品を見せる方法を検討し、自分の思い伝え方を検討する。	◇ア－③、ウ－②（ワークシート）
クリエイション	13時	・水門通り商店街の方や地域の方に自分たちの作品や活動を発表することを通して、商店街や地域の方との交流を図る。	●地域との関わりを意識させて活動に取り組ませる。 ◇ア－④、イ－④（発表）
	14 ～ 15時	・水門通り商店街の方からフィードバックをいただき、活動を振り返る。	●フィードバックを次年度以降の課題として生かせるよう指導する。 ◇ウ－③（ワークシート）

9 本時の指導

(1) 本時の目標

水門通り商店街の、商店街に対する地域の人の思いへの理解を深めることができる。

(2) 展開 (3 時間目 / 全 15 時間)

	学習活動計画	支援(●)と評価(◇)
導 入 (5分)	1 前時までの振り返りを行う。 ・ 本時のめあてを確認する。 G-round の方々との対話を通して、水門通り商店街への理解を深めよう。	
展 開 (35分)	2 商店街について調べてきた事実や、事実から気付いたこと、疑問に思ったことをグループごとにオクリンクプラスを用いて整理し確認する。 3 水門通り商店街の方に対し、まとめたことをオクリンクプラスを用いてグループごとに質問や疑問を発表する。 4 発表をもとに、水門通り商店街の方に商店街の紹介や現状、課題、こどもたちとこれから何をしていきたいかを話してもらおう。 ・ こどもたちの発表では、質問されなかった内容の中で、水門通り商店街青年部の方々が、児童に特に知ってほしいことを「メッセージ」として児童に伝える。	◇国語の「きいて、きいて、きいてみよう」で学習した意図を考えながら、発表できるように確認する。 ◇他のグループの発表を聞く時は、しっかりと話に耳を傾け、必要であれば適宜メモを取らせる。 ◇他のグループが整理したボードを共有して、誰でも見られるようにする。 ◇次時の活動へつなげるために、メモを取りながら話を聞くようにさせる。 ◇教師は、水門通り商店街の方の話の中で児童が理解できていない説明を判断する。
ま と め (5分)	5 本時の振り返りを行う。 ・ メモした内容の要点をもとに、感想を伝える。	◆アー①、イー① (オクリンクプラス)

月 日 5年 組 名前 ()



④ 水門通り商店街について知ろう。

〈知っていること〉

〈調べてわかったこと〉

1 1 （参考資料）オクリンク

The image displays two screenshots of a digital whiteboard interface, likely from a learning management system. Both screenshots show a lesson titled "5年1組 - 2024年9月11日1時間目の授業" (Class 5-1 - 1st Lesson on September 11, 2024).

Top Screenshot: The interface shows a whiteboard with four text boxes, each attributed to "小田結大 先生" (Mr. Oda Yūta). The text in the boxes is: "水門通り商店街" (Mizukamonji Shopping Street), "シャッターが閉まっているお店が多かった。" (Many shops had their shutters closed.), "お家の人もあまり行っていない。" (Few people are going to their homes.), and "楽しそうなお祭りをやっている。" (They are having a fun festival.). The bottom toolbar includes icons for erasing, copying, pasting, and a zoom level of 71%.

Bottom Screenshot: This screenshot shows the same interface but with a different whiteboard content. It features a coordinate system with a horizontal and vertical axis. The text "小田結大 先生" (Mr. Oda Yūta) is visible above the axes. The bottom toolbar shows a zoom level of 20%.

1 2 当日の授業の様子

